組合員の交流ページ

今月のてーまは…

災害に対して備えていること

今月のテーマは、「災害に対して備えていること」です。

阪神淡路大震災から26年経過し、2021年3月11日で、東日本大震災発生からは10年が経過します。そこで今回は、災害に対して備えていることや、震災の時のことを聞いてみました。

東日本大震災があってからの直後やその後何年かは災害に対しても意識がまだあったような気がしますが、年数を経ていくにつれ、だんだんうすれていっています。今はすぐ使わないし、必要ないか、いつ使うかわからないものにお金を使うより、目先のことに使うことを優先してしまっている自分がいます。いつくるかわからないからこそ、備える大事さに気づくことが今いちばん必要なことなのではと思います。さっそく備える準備をします!!

青森市の「こんぶちゃん」さん

◆こんな事がありました

※「三陸はるか沖地震」の時に、台所に出しっぱなしにしていた食器が床に落ちてこわれてしまい、片づけが大変でした。それからというもの食器類はすぐに洗い食器棚にしまって扉を閉めるということを続けています。家をきれいにすることは見ためだけではなく安全のうえでも、とても大切な事だと思います。それから、地震による家の倒壊の心配はあまりないのですが、津波による浸水や火災に備えて地震保険には加入しています。

八戸市のＳ・Ｏさん

※「三陸はるか沖地震」
１９９４年12月28日に発生した三陸のはるか沖（八戸市東方１８０km）を震源とするマグニチュード７・５を観測した地震。青森県では八戸市で震度６、青森市、むつ市で震度５を観測。死者は震度６を観測した八戸市で、建物の倒壊に巻き込まれた2名を含む3名、負傷者は７８４名にのぼり、住宅被害も全壊72棟を含む９５２２棟に及びました。

◆ライフライン

私の家では「東日本大震災」で電気が使えず、ご飯が炊けなかった為大変でした（家族は7人）。そのため、おちついてから母と2人で非常食を買ったのですが、賞味期限がきれそうになったり、きれていたり……。今、非常カバンの中は、テイッシュ、電池、軍手等、食べ物以外の物が入っています。

平川市のＹ・Ｋさん

◆災害以外でも活躍します

数年前、生協のリュックサックに入った災害セットを玄関に置いています。軍手、水、コンロなど、ほとんど生協でそろえました。１番のおすすめは、手でハンドルを回すと、電灯、ラジオが聞ける。何年か前、真っ暗い中はじめて（買ったままだった）使い、助けられました。ハンドル回した分使えるし不思議！サバ缶は生協のものを入れています。

七戸町のＳ・Ｋさん

◆いつ起こるかわかりません

備えているものは水と食料（缶詰）です。カセットコンロも準備しています。ガソリンも半分なくなるとつめるようにしています。いつ起きるかわからないので最低限だけですが準備しています。

八戸市のＭ・Ｏさん

◆ローリングストック

缶詰、インスタントラーメン、水等、常備していますが、日々使って補充のくり返しです。

八戸市のＨ・Ｔさん

◆常日頃から

食品のローリングストック。缶詰、レトルトカレー、水、米、乾電池、懐中電灯チェック。倒れそうなものの固定。浴槽は常に水を入れておく（トイレ用）。車のガソリンは半分より減ったら満タンに。

南部町のＡ・Ｔさん

◆あると、便利です

３・11の時は、車のエンジンをかけるとTVが見れ、ラジオが聞けましたが、家の中にはラジオがありませんでした。どこかから出してきたローソクで灯りをとり、旦那が鍋でご飯を炊き、（私は炊けませんでした）娘が机から学校の授業で作ったという手まわしラジオを持ってきました。先生ありがとう！と思いました。とりあえず、カセットコンロと、コンセントを使わなくても使えるストーブ、寒い時だったので、あって助かりました。

弘前市のＭ・Ｍさん

お湯を入れるだけで食べられる「ご飯」や長期保存できる「おかず」（右写真）
2020年11月 川内こ～ぷ委員会主催のつどいにて撮影

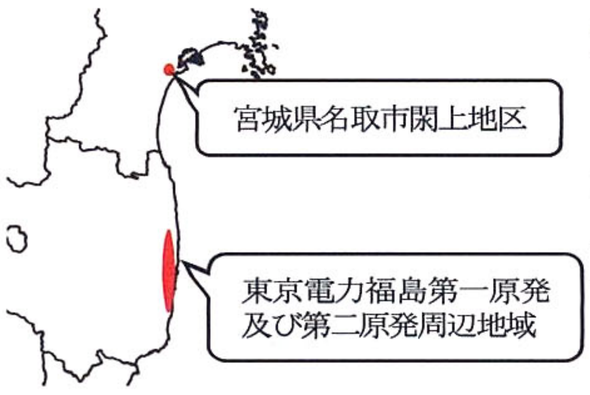
共同購入で取り扱っている「防災リュック」、必要なものが一通り入っています。（左写真）
2020年11月　五所川原地域
「男女共同参画による防災」にて撮影

はばたき5月号のテーマは「子ども（孫）の成長を感じたとき」です。

氏名（よみがな）・組合員番号・掲載時のお名前を明記の上、下記の応募先へ応募してください。皆様からのご応募をお待ちしております。

2020年３月初旬の被災地の様子

震災から10年が経過します。現在は新型コロナウイルスの感染拡大から訪問が困難なため、昨年被災地を訪問した際に撮影した写真を掲載いたします。



宮城県名取市閖上（ゆりあげ）地区 富主姫（とみぬしひめ）神社とその周辺（2020年３月初旬）

富主姫神社は、日和山（ひよりやま、標高6.3m）の山頂にあり、震災時に津波で社殿が流出してしまいました。2013年に再建され、閖上を見守り、震災による犠牲者を祀る鎮魂社となっています。

境内の松の木（写真）には、津波で押し流されたものによる傷痕が残っており、津波の恐ろしさを物語っています。

富主姫神社

山頂の松の木に残る津波の傷跡（約２ｍの位置）

日和山の下から

日和山から見た閖上の町

東京電力福島第一原発及び福島第二原発周辺の様子（2020年３月初旬）

バスから撮影した周辺地域の様子

帰還困難区域の一部解除が行われる数日前で、いたるところにバリケードが張られていました。

震災時からそのままの状態の家屋が残っており、現地を見ると震災はまだ終わっていないということを感じます。

＊今回の「組合員の交流コーナー」は、「はばたき」レポーターさん、および、「はばたき編集委員会」のメンバー等にご協力（寄稿、投稿）をいただき、紙面を作成しています。
宛先　おハガキの場合、〒０３８-００１２　青森市柳川二丁目４-22　コープあおもり本部　広報担当宛て　Ｅメールの場合は、habataki@coopaomori.com までご応募ください。